

抜本的見直しに向けた
取組状況について

〔 ○ (株) 湘南国際村協会 〕

令和 5 年 8 月

神奈川県総務局組織人材部行政管理課

抜本的見直しに向けた取組状況に対する部会コメント

抜本的見直しに向けた取組状況については、第三セクター改革推進部会での議論を踏まえ各法人ごとに次のコメントを付すこととし、そのコメントは取組状況とあわせて県ホームページで公表します。

- A 概ね着実に取組が進められている。
- B 見直しが着実に進むよう、より一層の取組が必要である。
 - * 個別に言及すべき事項があれば記載する。

令和5年8月30日

令和5年度第2回
第三セクター等改革推進部会資料

抜本的見直しに向けた
取組状況（令和4年度）

（株）
湘南国際村協会

抜本的見直しに向けた取組状況

(法人名)
(株) 湘南国際村協会

【抜本的見直しに向けた取組状況】

令和4年4月
～
令和5年3月

1 改訂第四次経営計画における取組の実施

計画の最終年度となる令和4年度(2022年度)は、令和2年度から引き続き、湘南国際村センターは神奈川県の新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養施設として運営されたため、宿泊人数は0人であった。

また、売上高803百万円、営業利益202百万円であるが、売上高は、神奈川県からの借上げ料及び委託料が枢要を占めた。

宿泊研修施設として本来の営業を再開する準備を行った。

今後、次に掲げる取組などにより事業の不断の見直しと改善を進めて、業績向上に全力で取り組む。

- ・ ネット広告の実施で新規顧客を獲得する。また、国際会議獲得のため、自社サイトでハイブリッド会議が実施できる魅力等をアピールする。
- ・ 県内の企業を対象に新規顧客を獲得するため、神奈川県の関係部署からの声掛けも賜りながら、上場企業を中心に直接訪問営業を強化する。
- ・ 既存顧客への電話等での密な連絡だけでなく、オンライン機能を活用し、迅速に需要を獲得する。また、休眠顧客の掘り起こしに取り組む。
- ・ 個人客の獲得強化で下期売上が積み上げるため、周辺観光施設との連携を強化し、鎌倉や横須賀の宿泊ニーズを取り込む。
- ・ 大学や研究機関、関係団体などの様々なネットワークを活用して、神奈川県が取り組む国際会議誘致などの新規顧客の獲得策の協力を得て、売り上げ向上を図る。

2 営業利益

売上高は 803 百万円、営業費用は 601 百万円となり、営業利益は 202 百万円となった。

【所管課の指導・調整内容等】

県は、改訂第四次経営計画における取組が着実に実施されるよう、国際会議の誘致・定着への支援などを予定していたが、令和2年度から令和5年5月まで、湘南国際村センターは神奈川県の新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養施設として運営されていた。

令和5年6月から、宿泊研修施設として本来の営業を再開したため、県としても、改めて関係団体に研修等での利用を呼び掛けるなど、円滑な営業再開に向けて、協会と一丸となって取り組んでいく。

経営改善目標の達成に向けた取組状況

1 法人の概要（令和5年7月1日現在）

法人名	(株) 湘南国際村協会						
設立年月日	平成元年10月17日			代表者名	代表取締役社長 出口 満美		
所在地	三浦郡葉山町上山口1560-39			電話番号	046-855-1811		
基本財産等	494,000,000	円	県出資額	1,020,000,000	円	県出資率	40.8 %
			※ 評価額	201,552,000	円	※ 評価額から算出	

2 法人運営における現状の課題

- | | |
|-----------------------|-------------|
| ① 湘南国際村基本計画を踏まえた事業の展開 | ② 安定的な売上の確保 |
| ③ コスト管理の徹底 | ④ 計画的な修繕の実施 |
| ⑤ 事業再開後の利用促進 | |

3 経営改善目標の達成に向けた取組実績等

* 項目ごとに、下段の（ ）内に目標を、上段に実績を記載してください。

【収支健全化に向けた経営改善】

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	4年度自己評価
1	宿泊人数	人	35,145 (33,300)	31,241 (33,600)	380 (33,400)	0 (34,200)	0 (34,500)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	令和4年度は、令和2年度から引き続き、湘南国際村センターが神奈川県の新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養施設として運営されたため、宿泊人数は0人となり、目標を達成できなかったが、本来の事業を行えなかった状況を勘案した。 なお、同センターは、宿泊療養施設として、療養者を1,040人、延べ人数にして6,232人（療養者数に泊数を乗じた数の合計）を受け入れた。				令和5年6月から宿泊研修施設として本来の営業を再開したため、第五次経営計画の目標を達成するよう、経営改善に取り組んでいく。			
	備考							

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	4年度自己評価
2	売上高	百万円	611 (597)	550 (602)	531 (632)	634 (642)	803 (645)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
	令和4年度は、令和2年度から引き続き、湘南国際村センターが神奈川県の新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養施設として運営されたため、売上高は、神奈川県からの借上げ料及び委託料が概要を占めたことを勘案した。				令和5年6月から宿泊研修施設として本来の営業を再開したため、第五次経営計画の目標を達成するよう、経営改善に取り組んでいく。			
	備考							

No.	項目	単位	30年度	元年度 (2019年度)	2年度	3年度	4年度	4年度自己評価
	営業利益	百万円	84 (64)	58 (63)	72 (71)	97 (80)	202 (84)	B
	自己評価（目標未達の場合はその理由）				今後の取組方針（目標未達の場合は必ず記載）			
3	令和4年度は、令和2年度から引き続き、湘南国際村センターが神奈川県の新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養施設として運営されたため、売上高が、神奈川県からの借上げ料及び委託料が枢要を占めたことによる営業利益であることを勘案した。				令和5年6月から宿泊研修施設として本来の営業を再開したため、第五次経営計画の目標を達成するよう、経営改善に取り組んでいく。			
	備考							

4 取組実績等についての総括（法人）

湘南国際村センターは、神奈川県から、新型コロナウイルス感染症に係る「宿泊療養施設」として借り上げたい旨の協力要請を受け、令和2年4月9日から、軽症者等の受入れ施設として利用されることとなった。令和4年度についても引き続き借り上げたい旨の協力要請を受け、当社としても、「宿泊療養」実施の趣旨である医療現場の負担軽減に協力するため、取締役会の決議を経て、受入れの継続に同意した。このような状況により、売上高は、神奈川県からの借上げ料及び委託料が枢要を占め、803百万円となった。営業費用は、計画修繕工事を含めて、601百万円となり、この結果、営業利益は、改訂第四次経営計画の業績目標を超える202百万円となった。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、通常営業を行うことはできなかったが、新型コロナウイルス感染症対策を進める神奈川モデルの一翼を担うことにより、神奈川県の医療提供体制の維持運営に貢献することができた。

5 取組実績等についての総括（所管課）

湘南国際村センターは、令和4年度も令和2年度から引き続き、神奈川県の新型コロナウイルス感染症の軽症者等の宿泊療養施設として運営され、通常営業を行うことはできなかったが、宿泊療養施設として、神奈川県の医療提供体制の維持運営に貢献したこと、また、この間も、従来からのリピーター等に対して継続したフォローを丁寧に行い、次の利用に結び付ける努力を続けており、評価できる。

令和5年6月からリニューアルオープンし、通常営業を再開したため、今後、宿泊研修施設としての本来の営業が1日でも早く軌道に乗ることを期待する。

6 第三セクター等改革推進部会の総合評価・今後の取組に向けた意見

評価結果	

県主導第三セクターの抜本的見直しに向けた行程表

(法人名)

株式会社湘南国際村協会

(今後のあり方)

早期の自立化に向けて、更なる経営改善に取り組む。

① 今後の課題(及びその対応)

今後の経営課題として、改訂第四次経営計画（計画期間：平成30年度から34年度）で、次の4つの項目を抽出した。

- ① 湘南国際村基本計画を踏まえた事業の展開
- ② 安定的な売上の確保
- ③ コスト管理の徹底
- ④ 計画的な修繕の実施・新たな修繕計画の準備

(対応)

湘南国際村基本計画の推進に貢献するという視点に立ち、村の中核施設である湘南国際村センターの機能を更に充実させるとともに、改訂第三次経営計画期中に減損減資に至った事態を重く受け止め、財務体質の強化に取り組み、閑散期対策の充実強化、強みを生かした提案型営業などに取り組むことを安定的な売上の確保に係る新たな取組の柱として、改訂第四次経営計画を平成30年10月に策定し、具体の取組を進めている。

② 抜本的見直しに向けた行程表

平成30年
10月

- 新たな中期経営計画となる「改訂第四次経営計画」を策定
(計画期間：平成30年度から34年度)

- 平成30年度から34年度までの5か年で、閑散期対策の充実強化、強みを生かした提案型営業など、新たな安定的な売上の確保の方策を柱とした、取組の実施

(主な具体的な取組)

- ① 閑散期対策の充実強化
- ② 湘南国際村センターの強みを生かした提案型営業
- ③ ホームページの全面刷新による集客の強化
- ④ 休眠顧客の掘起しのための訪問営業の実施
- ⑤ レストランの来客者数を増加させるためのメニューの改善
- ⑥ 旅行業登録を活用した他施設の紹介・小旅行の企画等

③ その他特記事項

平成30年6月29日の株主総会の減資決議により、累積損失は解消されたが、資本の減少という事態に至ったことを重く受け止め、本経営改善計画を着実に達成することで、早期の自立化を目指したい。

* 必要に応じて資料を添付してください。

抜本的な見直しに取り組む法人の経営改善目標 (目標期間：平成 30 年度～平成 34 年度)

(法人名) 株式会社湘南国際村協会

1 法人の使命・担うべき役割

- ・ 湘南国際村基本計画の推進への貢献
- ・ 設置目的である村の中核施設としての村センターの安定的な管理運営の推進

2 県が法人に期待する役割

湘南国際村基本計画上の村の中核施設としての機能の発揮

3 法人運営における現状の課題

減損減資後の経営改善計画の着実な履行

4 経営改善目標

総括的目標

平成 26 年度から 30 年度を計画期間とした「改訂第三次経営計画」については、平成 28 年度から 2 期連続の計画を超える純損失・平成 27 年度から 3 期連続の営業損失により、平成 30 年 6 月に減損減資・新たな経営改善計画（第四次経営計画）を策定した。

更に、10 月に当初計画を改訂し、閑散期対策の充実強化、強みを生かした提案型営業など企業・団体向けの一層の営業強化等を進め、平成 30 年度から 34 年度までの更なる宿泊人数・売上高・営業利益の増に向けて目標達成を目指すこととしている。

【収支健全化に向けた経営改善】

区分（単位）	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度
宿泊人数 （人）	33,300	33,600	33,400	34,200	34,500
売上高 （百万円）	597	602	632	642	645
営業利益 （百万円）	64	63	71	80	84

目標項目の選定理由

（達成により生じる効果）

早期の自立化に向けた売上向上等の経営状況を従前どおり 3 つの指標により定量的に把握・評価するため（3 つの指標の目標達成は、安定的経営の継続達成を意味する。）

目標値の設定根拠

第四次経営計画（平成 30 年 6 月策定）を更に見直し、閑散期の売上向上等、簡単ではないが、実現可能性ある取組を設定し、更なる売上向上を改訂第四次経営計画（平成 30 年 10 月策定）で目指すこととした。

* 今後の県からの財政的支援（または損失補償残高）の見込み
なし

5 その他特記事項

なし